

令和6年度 大田区立馬込第二小学校 学校経営計画

大田区立馬込第二小学校
校長 山崎 宏則

1 本校の教育目標

大田区教育委員会教育目標やおおた教育ビジョンに基づき、人間尊重を基調とし、学力の向上と健全育成を図り、生きる力の基礎を培う。また、学校と家庭・地域との連携を深めるとともに小中一貫の教育を進め、地域全体の教育力の向上を図る。この考えを基として、次の学校教育目標を定める。

本校の教育目標

- ◎心豊かで思いやりのある子（重点目標）
- よく考えくふうする子
- 健康でたくましい子

2 学校経営の基本理念

「笑顔・あいさつ・思いやりのあふれる楽しい学校」

～学校全体が目標・目的（課題解決）に向かって組織的に力を合わせて有意義に協働する学校～

小学校には、子どもたちの幸せ、努力、成長が感じられる場面がたくさん！

保護者や地域の
思いを共有

【子どもたちにとって】

- ・学ぶことの楽しさ、努力の成果・成長、人とのよりよい関わり、幸せが感じられる有意義な学校
- ・豊かな学びや実践的な経験をもとに、よい学び・よい行動・よい考えがたくさん認められる学校

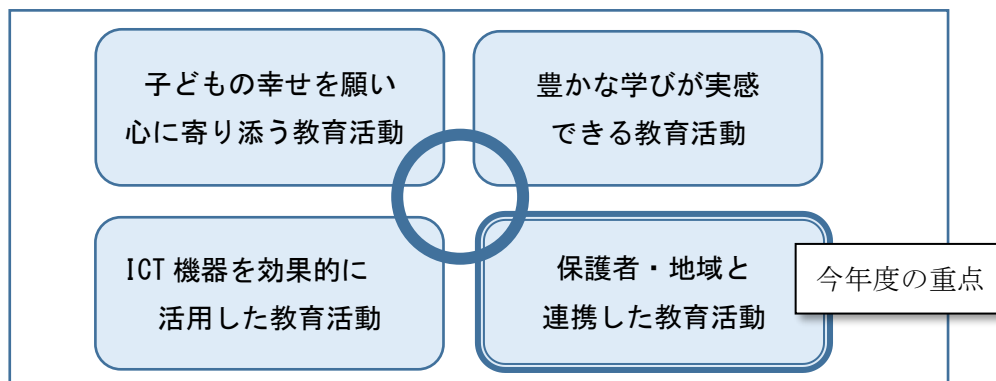
【教職員にとって】

- ・子どもたちの幸せを願い、明るく楽しい学校を目指した「チーム馬二」の協働的な教育活動
- ・子どもたちの夢、わくわく感、旺盛な知的好奇心を大切にしながら、褒めて伸ばす教育活動

【そのためのコンプライアンスとリスク管理】

- ・一人ひとりを大切にされた教育活動 人権尊重・人権的配慮の徹底
- ・子どもたちの安心・安全を第一に考えた教育環境づくりと積極的な生活・安全指導

3 学校経営の重点（4つの柱）



子どもの幸せや生きがいの実現

「個別最適」 「協働的」 学びの一体的充実

を目指して

4 教育目標の具現化に向けた3つの学校像

以上の教育目標および令和5年度の重点の具現化に向けた教育活動を展開するにあたり、学校経営の基本姿勢を「子ども」「保護者」「区民（地域）」の視点での3つの学校像として以下に示す。

(1) 子どもたちが誇れる学校

①授業がよく分かり、自己の向上が実感できる学校

学習の基礎・基本となる学習内容の定着を図る。繰り返し学習を行う中で、子どもたちの「なぜ?」「やってみよう」「分かった」という主体的な学びのサイクルを大切にする。基礎・基本の定着を図りつつ、自分自身を振り返ることで、できるようになったことや学ぶ喜びを実感できるような授業を日々研究し、提供していきたい。

②一人ひとりのよさが十分に発揮され、自己肯定感が高まる学校

学習や学校行事の中で、自分の役割に責任をもち、最後まで粘り強くやり遂げることをめあてとしてもたせる。自分なりに考えて行動することは、一人ひとりのよさがそれぞれの場面で発揮される経験を生み出す。「やってよかった」「挑戦してよかった」という思いを自信につなげていきたい。このような経験を通して、自己肯定感を高める場を充実させる。

③安心できる居場所が確保され、互いに認め合える学校

学年、学級もしくは異学年交流等、それぞれの場で安心して「笑顔」で学校生活を送れるような学習環境を創出する。友達との様々な学習体験や学び合いの切磋琢磨からお互いのよさや「思いやり」を感じ取り、互いを尊重し、認め合える学校でありたい。

(2) 保護者が応援してくれる学校

①子どもが登校することを楽しみにする学校

子どもが学習や友達との学校生活を楽しく感じ、明るく元気に学校生活を送ることのできる学校を目指す。「あいさつ」を人と人とのコミュニケーションの第一歩ととらえ、「笑顔いっぱい あいさついっぱい」を合言葉に、明るく居心地のよい学習・生活環境をつくる。学校は子どもたちの幸せ、努力、成長がたくさん感じられる場であることを共有したい。

②指導が丁寧で子どもの成長が認められる学校

学習面、生活面ともに子どもに寄り添い、繰り返し丁寧な指導、よさを褒めて伸ばす指導を継続することが確かな学習の定着につながる。PDCAサイクルの学習を形成し、様々な学習体験を積み重ねることで、子どもの成長が確実に認められる学習基盤を構築していきたい。

③保護者の要望や悩みに誠実に応じてくれる学校

子どもの成長は一人ひとり様々であり、誰一人として同一の成長をなすものではない。子どもが健やかに成長していく過程での悩みや相談に真摯にかつ誠実に応じる学校でありたい。学校と家庭が車両の両輪となり、一人ひとりの成長を支える体制を充実させる。

(3) 区民（地域）に信頼される学校

①教育活動に魅力があり、社会の創り手となる基礎を育てる学校

保護者や地域、関係機関と連携を図りつつ、より効果的な魅力ある教育活動の推進を図る。地域や社会の中の学校として、世の中の変化に柔軟に対応し、未来に向けて自らが社会の創り手となる力の基礎を丁寧に育成する。

②子どもが素直に育ち、学校に活力が感じられる学校

家庭や地域で育つ子どもたちが、保護者・地域に愛され、学校でも素直に健やかに成長できるような学習環境を構築するとともに、子どもたちの幸せ溢れる生き生きとした教育活動を積極的

に発信していきたい。学校の中で児童の活躍の場は多い。これらを共に分かち合うことは、保護者・地域にとっての大きな喜びや幸せに繋がると考える。

③教育環境の整備が行き届いている学校

子どもがよりよく成長するための教育環境の整備に尽力する。安心・安全な教育施設・設備はもとより、保護者・地域とともに児童を育成し、複数の目で児童の成長を見守る教育環境を大切にしていきたい。

5 教育目標の実現に向けた基本方針

(1) 未来社会を創造的に生きる力の育成

①新教科「おおたの未来づくり」への準備（※本格実施はR7～）

「創造的な資質・能力」を育成するために、「創造・探究」を通して「ものづくり」「地域の創生」を視野に入れた教材開発・教材研究を模索する。今年度は校内研究に位置づけて、特例校申請を組織的に推進する。

②電子黒板・デジタル教科書・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用することで、情報活用能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

③理科指導専門員や理科支援員の活用を通して、児童の科学・技術に関する興味・関心を高めるとともに、論理的・科学的な思考力を育成する。

④プログラミング学習を導入し、プログラミングの仕組みなど体験活動等を通して理解させるとともに児童の論理的思考力を高める。また、学習面だけでなく、生活面でも、自分自身の気持ちをしっかり伝えられる、理由や思いを伝えられる児童の育成を目指す。

⑤体験活動を重視した特別活動（学校行事）の充実を図る。児童の力を高める有意義な機会として各行事の意義をとらえる。ねらいを明確にして取り組ませ、めあて、振り返りを実施し、自己肯定感や人間関係形成能力、表現力等を育む。

(2) 世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成

①コミュニケーション能力の育成として、年間を通し「あいさつ」をコミュニケーションの第一歩ととらえ、馬二小の良き伝統となるよう指導の充実を図る。「あいさつ週間」や「あいさつカード」の活用をさらに充実させる。

②外国語講師と外国語教育指導員（ALT）による外国語及び外国語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の育成を図るとともに国際理解教育の推進の一助とする。

③学校の特色として、地域教材「馬込文士村」の学習を継続し、新教科「おおたの未来づくり」との関連を図りながら地域への愛着や誇りを育む。

(3) 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成

<確かな学力の育成>

①学習のねらいを明確にし、学年に応じた基礎・基本の充実を図る。単元の系統性をもとに既習内容と新たに学習する内容、児童個々の理解度を明確にしながらかかりやすく学習を進める。

②返事・あいさつをしっかりと身に付けさせる。授業の始まりと終わりのあいさつでけじめを付けさせ、落ち着いた学習環境で有意義かつ充実した学習を継続できるようにする。

③児童の学習意欲・動機付け（「なぜ？」「やってみたい」「調べてみたい」）を大切にし、児童の主体的な学習を経て確かな学習成果（「分かった」「できるようになった」）と学ぶ楽しさが感じられる生き生きとした授業を提供する。

- ④児童の主体的な学習として、探究的な学習において「協働的な学習」「個別最適な学習」を実践する。
- ⑤大田区学習効果測定等の学力調査の結果を踏まえて、授業改善推進プランを作成・実践し、授業改善につなげる。また、学習カルテ等を効果的に活用し、評価・指導方法を見直し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育てる。
- ⑥互いに自己の考えを伝え合う学習活動を効果的に実施することで、一人一人の児童の学力と言語能力の向上を図る。また、特別活動・生活指導においても言語能力の向上を図り、自分の思いや考えを生き生きと表現できる児童を育成する。
- ⑦確かな学力の定着を図るため、特に算数科では、習熟度別少人数指導を実施し、「東京ベーシックドリル」や「算数ステップ学習」、補習教室の活用を図る。また、学習コンテンツを活用した家庭学習や各家庭との連携を密にすることで、家庭学習の充実を図る。
- ⑧ICT教育の推進としてタブレット端末を活用した授業のより一層の充実を図る。学習目的を「ドリル、探究、表現、交流」の4点に分類・整理し、個別最適で効果的な活用を模索する。また、基礎・基本の習得としてタブレットドリルの活用（反復学習・宿題含）を図る。
- ⑨学習評価の充実
 - ・ねらい達成の評価+児童一人ひとりの個人内評価 指導に生かす評価と記録に残す評価
 - ・学習評定については評定基準の明確化・共有化を図る。

<豊かな心の育成>

- ①他者理解や思いやりの心を育成する。互いに思いやり他者を大切にしている指導を大切にし、学校生活を楽しく有意義に過ごすために豊かな心や他者との協調性を育む。(協調性、情動知能、感情調整、役割取得能力、アサーションなど心理学的アプローチも)
- ②全教育活動を通して、道徳教育を実践する。考え・話し合い・議論する道徳の授業を展開し、自他の命および人権の尊重、規範意識、思いやりや感謝の心を育む。
- ④高学年児童・委員会活動を中心に、学校生活をより豊かにしていくための自治的な活動に取り組みせていく。
- ⑤読書活動計画を策定し、読書学習司書を活用したり、読書サークルによる朝の「読み聞かせ」を定期的に行ったり、週1回以上の「朝読書」の時間を確保したりするなどの取り組みにより、読書への動機付けや読書をする楽しさを味わわせるとともに、読解力の向上を図る。
- ⑥人権週間、生命尊重週間の取り組みを充実させ、自他の生命を尊重する態度と実践力を育てる。
- ⑦障害者理解教育を通して、他者を正しく理解し、互いに尊重し合うことのできる心を育む。

<健やかな体の育成>

- ①日常的な体育的活動を充実させるため、東京都統一体力テスト等の結果を有効に活用するとともに、体力向上プログラムに基づく授業を実施する。
- ②「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動に取り組み、体力の向上と運動の日常化を図る。また、低学年を主として、体育指導補助員を活用して、体育の充実を図っていく。
- ③養護教諭と連携した保健教育を通して、児童の生活習慣への意識を高めさせ、自己の健康に留意し、たくましく生きる心身の基礎を身につけられるように図る。
- ④「早寝・早起き・朝ごはん」月間を推進し、児童の基本的な生活習慣の確立と健康の増進を図る。合わせて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるように食育を推進する。

- ⑤食育の推進 体をつくるもとになる食についての学びの推進を図る。学校給食や保健教育を充実させ、楽しく学び健康で健全な体をつくる教育を充実させる。

<一貫性のある教育の充実>

- ①馬込東中学校との学習指導面・生活指導面での連携を継続・推進する。
②学区内の保育園・幼稚園との連携を強め、スタートカリキュラムを活用して、保育園や幼稚園との円滑な接続を図る。

(4) 学校力・教師力の向上

- ①「学校全体が目標・目的（課題解決）に向かって組織的に力を合わせて有意義に協働する学校」を目指し、すべての教員が組織としての学校経営に対する参画意識がもてるよう「チーム馬二」として円滑な学校運営を推進する。
②学校経営方針に基づいて自己申告書を作成する。目標や具体的な手立てを明確にして学習指導、生活指導、特別活動、学校運営等を充実させ、常に改善を加えながら業務を推進する。
③学校組織の最小単位は学年であることを共通理解し、年度当初に学年主任が学年経営案を作成する。学級担任は学年担任でもあることを意識して学年全体の組織的対応を心がけるとともに、学年経営案をもとにした学級間で温度差のない適切な学年経営の充実を図る。
④年間計画に基づいた週案簿を作成し、PDC Aサイクルによる授業改善を図る。教材研究を十分に行い、安全に配慮した計画を立案し、日々の授業の改善や充実に努める。
⑤校務分掌に責任をもち、適切に遂行するとともに、常に組織的な業務の進行を心がける。組織としての協働を大切に、円滑な学校運営を目指す。
⑥「馬二スタンダード」「SNSルール」等、学校のきまりの共通理解を図り、温度差のない指導を心がける。学年担任としての目を常にもち、学年が連携して指導に当たる。
⑦「初期対応」「早期発見・早期対応」を的確に行い、問題をトラブルに発展させない。
⑧子どもに相對するとき、子どもの心に寄り添い、「指導者」としての対応を心がけたい。指導者としてクールヘッド・ウォームハートが必要である。子どもが「自分は大切にされている」ということを実感できる指導を実践する。
⑨新教科への対応を踏まえ、主として生活科・総合的な学習の時間の授業実践を通して、校内研究の推進を図る。また、大田区教育委員会主催の研修やO J T研修、指導訪問等の機会を積極的に活用し、自己研鑽を図る。O J T研修は全教員対象とし、学校全体の資質向上を図る。
⑩勤務規律を遵守し、社会人として、教育公務員としての自覚を伴った言動を心がける。人権に配慮した対応や個人情報管理の適切な管理など、常に信頼される教職員を意識する。
⑪子どもたちの幸せ（ウェルビーイング）を希求するには、まず、教職員が幸せ（ウェルビーイング）でなければならない。組織の中で、教職員一人一人がやりがいや自己効力感の感じられる職場、活躍できる学校を目指す。
⑫ライフワークバランスの推進
教職員自身がライフワークバランスを意識する。日々の生活の質の向上や人生を豊かにするための個々の時間は、よりよい人格形成をもたらす、ひいては教育の質の向上にもつながる。仕事もプライベートもともに充実し、自分でできる働き方改革を意識・実践する。

(5) 自分らしくいきいきと生きるための学びの支援

- ①「積極的な生活指導」を充実させる。話し合いによる解決方法を身に付けさせ、相手の身になって考えられる子に育成する。校内体制としては、全教職員で情報を共有し、いじめやその他

問題行動の未然防止問題解決のための組織的対応を行っていく。

- ②学校生活調査（メンタルヘルスチェック）や学級集団調査（WEB QU）の活用や個人面談、特別支援教室やスクールカウンセラーとの連携を通して、児童理解を深め、児童の心の安定を図るとともに、一人一人を支援する教育を推進する。
- ③不登校や行き渋りの児童に対応するために、保健室や教育相談室を活用した校内の居場所づくりを推進する。登校支援員の活用を図り、家までの迎えや別室対応などの支援を行う。
- ④若竹学級や異学年等との交流学习及び共同活動を通して、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。
- ⑤特別支援コーディネータを中心に、サポートルーム教員・在籍学級担任が連携を取り、保護者との連絡を密にしながら、子どもが感じている学校生活上の困難さに対する支援体制を充実させる。
- ⑥特別支援学級における指導の意義や内容について教職員が理解を深め、児童への対応と指導に適切に生かしていく。

（6）柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境の創造

- ①校内環境の充実を図る。教科学習の内容に応じて適切な学習環境を整備するとともに、児童の学習の様子や学校の特色が分かる生き生きとした掲示物、児童の学習意欲、好奇心、夢や前向きな気持ちを高める掲示物を作成し、よりよい学習空間の創造を推進する。
- ②学校公開日や学校行事の公開、学校から発信するおたより、ホームページ等を通して、教育活動に係る情報を発信し、家庭や地域社会とともに児童を育成する開かれた学校運営を進める。今年度は、学校ホームページのさらなる充実を図る。
- ③避難訓練や安全教育を充実させ、安全に対する意識や危機意識を育成する。「自分の身は自分で守る」を実践させる。また、定期的な安全点検を充実させる。
- ④池上警察署との連携を継続し、セーフティ教室等を計画的に行い、児童の健全育成を図る。

（7）学校・家庭・地域との連携

- ①コロナ禍により制限されていた地域連携を今年度4つの柱の重点とする。校内研究と絡めた地域教材・地域人材の開発・活用を模索し、子どもたちにとって有意義な活動を設定する。
- ②学校支援地域本部およびPTAと連携し、多様な体験的活動の場を設定したり、地域とのつながりを生かした教育活動を展開したりする。
- ③コミュニティ・スクールに向けて、地域教育連絡協議会の充実や教職員・家庭への理解促進等の準備を進める。
- ④地域・PTAの活動を理解し、効果的な学習の推進と学校との連携をより深める目的で、教員の地域・PTA行事への積極的な参加を推進する。